

本 会 記 事

1. 昭和52年度総会ならびに研究発表会

四国植物防疫研究協議会の昭和52年度総会および研究発表会は、約120名が参加し、11月16日に、丸亀市の丸亀市民会館で開催された。

(1) 総 会

午前10時から開会され、昭和51年度会務報告が承認されたのち、昭和52年度事業計画ならびに予算が上程され、承認された。なお、52年度以後の編集事務は香川県農業試験場で担当されることが承認された。

(2) 研究発表

11時から15時まで、つぎの課題について研究発表が行われた。

佐々木善隆・尾崎幸三郎：複合剤の効果の種間差異

吉岡幸治郎・土居隆洋・河野 弘・向井宣広：トビロイウンカの薬剤感受性と主要殺虫剤の効果

重松喜昭：ハトムネ自動催芽機利用による種籾消毒の問題点について

金磯泰雄・柏木弥太郎：オオムギ斑葉病の種子消毒

十河和博・都崎芳久：イネもみ枯細菌病の品種間差異

大広 悟・寺岡義一：香川県における殺ダニ剤の感受性

亀井正治・浅野昌司：ZARDEX のミカンハダニ防除効果について

高井幹夫：シヨウガを加害するガガンボの生態と防除

橋田信行・高山昭夫・山崎康男：ハスモンヨトウのカラートップと誘殺数およびその季節変動

以西信夫・野口義弘・山下定利・小山光男・釜野静也：ハスモンヨトウの合成性フェロモンを利用したマストラッピング法の防除効果

(3)・協 議

15時から17時まで、最近問題になっている病害虫の発生状況、防除対策および問題点について各県の行政部局の担当者から報告があり、意見の交換を行った。その要旨は61～64頁に掲載した。

2. 明年度総会

昭和53年度の总会総会は徳島県が担当し、今秋開催の予定である。

3. 訃 報

本会会員、和喜由雄氏（徳島県）は昭和52年11月8日に、また清家安長氏（愛媛県）は昭和53年3月30日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

編 集 記 事

去る5月15日の編集委員会における討議で、次の2点が決まりましたのでお知らせします。

1. 四国植防に、登録書名“Shikoku shokubutsu bōeki kenkyū”として国際標準逐次刊行物番号 ISSN 0386-0515 が割り当てられたので、表紙の右上隅に ISSN 0386-0515 を記入する。

2. 雑誌の英語略名は、従来、Proc. Assoc. Pl. Prot. Shikoku. としていたが、第13号より Proc. Assoc. Plant Protec. Shikoku に変更する。